

2020 年度事業報告

一般社団法人 子育て園 ぽかぽか

「一般社団法人 子育て園 ぽかぽか」（以下「ぽかぽか」という）は、コロナ禍において予定変更を余儀なくされながらも、こどもを中心に、会員の皆さま、地域や支援者の皆さまのご理解、ご協力のもと、力を合わせて本年度も無事に活動に取り組ませていただきました。以下、2020 年度の事業報告をいたします。

I 事業期間

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

II 事業の目的

すべてのこどもの健やかな成長を支え、共に生きることを目的とする。

III 事業の成果

保育事業では、ご兄弟をお一人目から全員お預けくださったご家族の卒園が重なる年となりました。コロナ禍で、保護者の方々と共に苦悩することもありましたが、未知の経験を前にしたからこそ、「つくし園で大切にしたい保育とは」を、一人ひとりが問い直し、こどもたちには変わらない日常を、と力を合わせた一年でした。

支援事業でも、事業立ち上げ当初からずっと、8 年間通所くださったご家族の卒業が重なり、月日の流れ、人のつながりを強く感じました。

新体制で取り組んだ療育の中で、試行錯誤を繰り返しながら、同時にコロナ禍で行ったさまざまな工夫をも貴重な経験とし、学びに変えることのできた一年でした。

地域に開放し、継続して行ってきた夏祭り、バザー、もちつき大会（日野神社）や各種講座なども開催を見送りました。ボランティア、トライやるのお子さんの受け入れ等も行えませんでした。年度末に参加者を縮小して行った作品展では、わたぼうしクラスの保護者の方々全員のご来場があり、共にこどもたちの嬉しい成長を感じさせていただくことができました。

両事業とも、運営助成金は、事業実施に対して考慮され、同時にコロナ禍での事業遂行に必要な施設整備等に伴う補助金も交付されました。両事業が如何に社会に果たす役割・責任が重いかを再確認し、意識を高く職員一同で力を尽くしました。

まだ先の見えない状況下ではありますが、この一年で得た経験を活かし、ぽかぽかならではの子育て支援、地域交流を模索してまいります。

小規模保育施設事業

つくし園 園児定員 12 名

職員 正職員 5 名 パート職員 10 名 講師 1 名 管理栄養士 1 名 合計 17 名

うち 管理者 1 名 保育者 11 名 調理者 2 名 事務者 1 名

アートセラピスト 1 名 管理栄養士 1 名

管理者 斉藤 律子 ・ 保育代表 柚木 祥 ・ 保育主任 杉山 由美

感染対策に配慮が求められた一年でしたが、みなさまのご協力のお陰で健康に過ごせ、保育施設のあかりを灯し続けられたことに感謝申し上げます。

定員 12 名(1 歳児 6 名、2 歳児 6 名)を満たし、安定した運営を行うことができました。

かつてない特別保育が導入され、保護者の方々にも多大なご協力いただきました。

6 月ようやく 12 名揃い通常保育に戻りましたが、コロナ禍において多忙を増した家庭も多く、社会における保育事業の重要性を改めて感じた年となりました。

園行事は見送り、中止、縮小と社会状況を踏まえ遂行しました。よりコミュニケーションを図れるよう努めたことで各家庭と園の繋がりが強く感じられる場面もありました。

秋にはこどもたちの園生活を支えるため、お父さま方による園庭整備が実施されました。

小規模施設だからこそできる丁寧な関わりを大切に、保育の充実を図ることに繋がりました。市や関係機関との連携、地域の方々のご理解、温かい眼差しに支えていただき、より良い環境に近づけることを改めて実感する一年でもありました。

大きな成長を見せてくれた喜びの中、1 歳児 2 名、2 歳児 6 名は 3 月末卒園、転園されました。

施設見学者は、年間 20 名来園。

1. 子育て支援に関わる事業

(1) 園庭開放を実施

月～金曜日 午前 10 時～11 時 30 分

感染予防のご協力のもと 6 月より実施。問い合わせは例年より少ないものの、子育て中の親子が参加できる場として、感染対策を慎重に、園庭での活動とお散歩を楽しみました。保護者との繋がりがもてる貴重な地域交流の場となりました。

利用状況 月に 0～2 組

(2) 保護者会の開催（全 3 回）

①4 月 11 日「つくし園での生活と保護者交流会」 延期 7 月 4 日実施 10 家庭参加

②6 月 6 日 「保育室とこども」 見送り

③9 月 5 日 「こどもの育ちを深める」 見送り

2. 子育て支援に関わる研究・人材育成およびその場の提供

(1) 研究発表

- ・武庫川女子短期大学幼児教育学部 「保育者論」前期 担当 オンラインとオンデマンドにて
佐藤知子氏（子育て園 ぽかぽか） 発表内容①
- ・「幼児教育の専門性を育むー遠隔授業の中で学生とのつながりを考えるー」
第6号 2021年3月 武庫川女子大学 学校教育センター紀要
久米裕紀子氏・脇田栄氏・村岡節子氏・坂本美佐子氏・金光文代氏・両角妙氏・佐藤知子氏
発表内容②

(2) 職員研修

《A》所内研修

◎保育スキルアップ研修

- ・こどもの観察（4/9 見送り）
- ・こどもの観察（5/14 見送り）
- ・保育室から安全と養護（6/11）
- ・保育発達に応じた遊び（7/9）
- ・こどもとの関わり方「生活」（8/20）
- ・地域交流の役割「バザーに向けて」（9/10）
- ・こどもとの関わり方「食育」（10/8）
- ・保育と環境（11/12）
- ・クリスマス行事に向けて（12/10）
- ・手しごとの意味（1/14）
- ・人形手作り（2/18）
- ・成長のあかし（3/18）

《B》保護者合同研修 見送り

《C》所外研修

- ・保育所職員現任研修「乳児保育の保育内容と指導計画」
(10/29 武庫川女子大学教育研究所 助手 橋詰 啓子先生)
- ・保育所職員現任研修 「感染症対策のリスクマネジメント」
(11/20 関西学院大学教育学部 助手 松井 学洋先生)
- ・西宮市リスクマネジメント研修
(2/18 名寄市立大学特命教授 猪熊 弘子先生)

《D》施設見学 見送り

支援事業

児童発達支援 西宮 たんぽぽ

職員 正職員 5 名 講師 8 名 パート職員 8 名 合計 21 名

うち 管理者 1 名 児童発達支援管理責任者 2 名

指導員 9 名 事務者 1 名

言語聴覚士 1 名 作業療法士 1 名 音楽療法者 1 名 習字講師 1 名

アートセラピスト 1 名 操体法運動講師 1 名 芸術体験講師 1 名 特別講師 1 名

管理者 神長 純子 児童発達支援管理責任者 和田 雄介 ・ 佐藤 知子

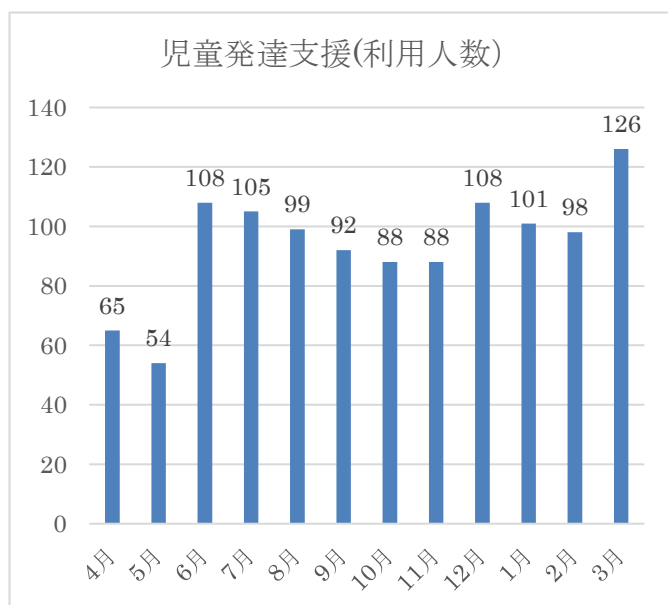
- | | | |
|----------------------------|----------|-----------|
| (1) 児童発達支援事業（つばみクラス） | 主担 井阪 明 | 契約者数 13 名 |
| (2) 放課後等デイサービス事業（わたぼうしクラス） | 主担 森永 恵理 | 契約者数 19 名 |
| (3) 保育所等訪問支援事業（つむぎ） | | 契約者数 16 名 |

コロナ禍の中、こどもたちの安全に配慮しながらどのように療育を行っていくのか問われ続けた 1 年でした。

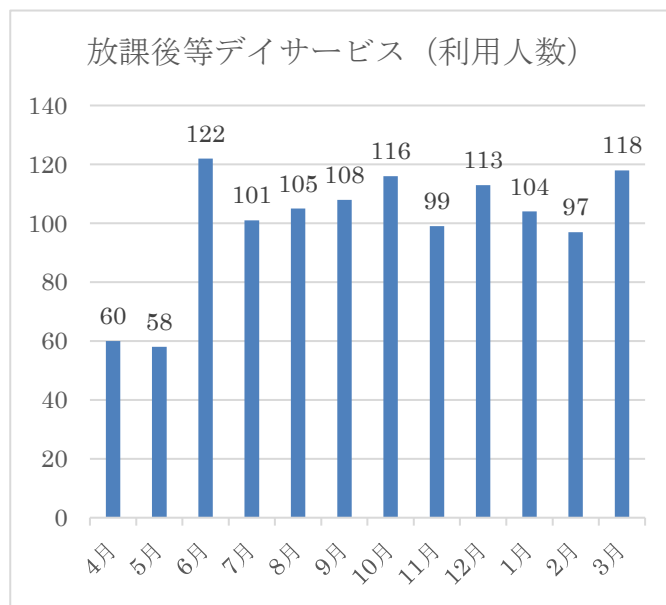
これまで当たり前に行ってきたプログラムの変更が余儀なくされ、見直す必要が何度も生じましたが、「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍の中で、こどもたちとどんな経験ができるか」という視点で職員一同こどもたちに向き合い、知恵を出し合いました。日々試行錯誤を繰り返しながらの工夫を続けていくことで、「コロナ禍の中だからこそ」改めて大切なことを見直せた 1 年となりました。

◎年間利用人数の推移グラフより

(1) 児童発達支援事業



(2) 放課後等デイサービス事業

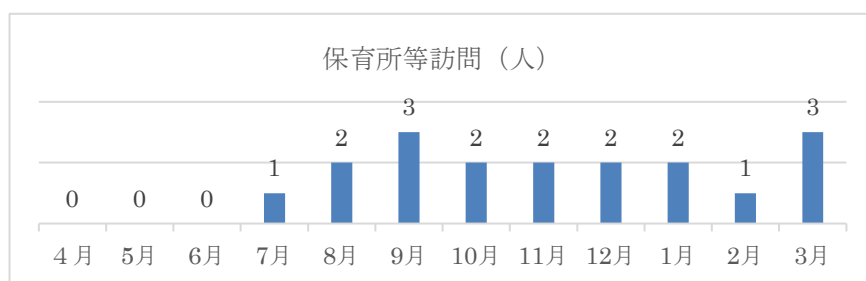


4月、5月は緊急事態宣言下で、通常の受け入れから特別療育を必要とするこどもたちへの個別・少人数での療育プログラムに変更しました。個別対応となったことで、さらに効果の高まったケースを経験し、小集団と個別の両面からのアプローチの大切さを再認識しました。

6月以降は、プログラムの内容を工夫しながら、通常の受け入れを再開しました。感染対策を行いながらの受け入れが、活動内容・時間の使い方・場の使い方等の見直しにつながり、結果的に療育の質そのものを問い直すきっかけとなりました。この学びを次年度に活かしてまいります。

2020年度はまた、中学生「かなでクラス」をスタートさせた1年でした。月に1～2回の土曜日、4名のこどもたちの受け入れを行いました。小集団で話し合い、一つの目標を決め、それを達成するために仲間と協力・役割分担を行いながら計画を進めていきました。今後もこどもたちの自主性を大切にしながら活動を継続していきます。

(3) 保育所等訪問事業（つむぎ）



コロナ禍で訪問が可能な学校と制限がある学校に分かれ、保護者のニーズに充分応えきれないケースもありました。学校への訪問が難しい場合も、保護者や学校と連絡を取り合い、日々を安心して過ごせる工夫が必要だと感じました。

つばみクラスに幼稚園との併行通園児が増えたことで、少しずつ、学校だけでなく幼稚園への訪問ニーズも増えてきました。来年度は、さらに保護者と連携をとりながら、訪問支援事業の充実に努めます。

1. 子育て支援に関わる事業

(1) 保護者会の開催（年2回）

就園、就学について（7/13）

講師 米倉裕希子氏（関西福祉大学 教育学部 准教授）

日常生活の中でのことばの発達について（3/16）

講師 俵屋章則氏（言語聴覚士）

(2) ペアレント・プログラム 見送り

2. 子育て支援に関わる研究・人材育成およびその場の提供

職員研修

《A》 所内研修

◎職員による自主的学びを支援した研修

- ・食育 つぼみクラスでの実践報告（11/16 井阪）
- ・見通しの立て方・スケジュール提示の方法と活用（12/11 森永）
- ・調理場面での課題と工夫（2/6 常松）
- ・手遊びについて つぼみクラスでの事例、実践報告（1/20 高階）
- ・就学について（8/31 和田）

◎スキルアップの向上をめざして

- ・絵本の読み聞かせ（8/31, 10/13 佐藤）
- ・事例検討（8/31, 3/18 佐藤）

◎講師をお招きしての研修

- ・オンラインでの療育について、療育現場での構造化について（7/13 米倉裕希子氏）
- ・障がい児福祉と現在の制度について（11/16 米倉裕希子氏）
- ・療育を進めるにあたって（12/11 米倉裕希子氏）
- ・日常生活スキルに繋がる作業療法（1/20 矢野寿代氏）
- ・日常生活の中での言葉の発達（2/16 俵屋章則氏）

《B》 保護者合同研修 見送り

《C》 所外研修

- ・児童発達支援 事例検討会（11/19）
- ・放課後等デイサービス 事例検討会（2/10）
- ・福祉現場における職業倫理について（10/15）
- ・ASDの方への理解と支援（11/4）
- ・障害福祉サービス事業所等における感染症対策力向上支援業務オンライン研修（1/12）

《D》 施設見学

- ・芦屋特別支援学校 オンラインにて（10/22）
- ・西神戸高等特別支援学校見学（2/4）
- ・とことこクラブ（3/31）

法人 地域開放型事業

1. 子育て支援に関わる事業

(1) 法人行事

《A》バザー 2020年10月24日（土） 見送り

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、残念ながら見送る形となりました。両施設の担当職員で開催について話し合いを重ね、意見交換しました。

見送りについて、地域へのごあいさつに回った際、また卒園児のご家族からのお問い合わせで、地域の方々が当法人のバザーを心待ちにしてくださっていることを改めて感じることができました。

《B》もちつき大会 2021年1月23日（土） 見送り

法人行事としては残念ながら見送る形となりましたが、たんぽぽ・療育プログラムの中の「焼き芋体験」という形で少人数で実施しました。緊急事態宣言発令中の中、こどもたちの安全を確保しながら温かく支えてくださった日野神社さん、地域のみなさまに深く感謝申し上げます。

《C》作品展開催 2021年3月第1週（1～6日）

今年度は、法人行事として取り組む予定でしたが、例年通りたんぽぽの作品展とし、縮小して開催しました。こどもたちの日頃のたんぽぽでの生活・取り組みを保護者の方に丁寧にお伝えできるよう工夫し、実感いただける作品展となりました。

《D》助成金

・阪急阪神ホールディングス株式会社 阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 申請

(2) 地域開放子育て講座 ～子育て支援ひろば～ つくし園

・第1回「親子で水遊び」 7月4日（土） 見送り

・第2回「保育室開放と人形劇」 2月20日（土） 見送り

2. 子育て支援に関わる研究・人材育成およびその場の提供

(1) 公開講座

・第3回「インクルーシブな社会の実現に向けて」

シンポジウム等の集会は見送りました。今後、どのような形で活動を進めていくことができるか検討していきます。

(2) 法人内全体職員研修

- ・ 6 月 27 日（土） 講師：吉良 創氏 延期
- ・ 8 月 22 日（土） 同上 延期
 - ・ こどもの傍らに立つ大人の姿勢
 - ・ ワークショップ（リズムを動く）
 - ・ 将来を見据えた、特に第一 7 年期のこどもの育ちに必要な環境
- ・ 11 月 19 日（土） 開催
 - ・ こどもの施設とは 斉藤律子氏
 - ・ センスオブワンダーを通して 神長純子氏
 - ・ 日常、起こりやすい事故とその対処法 横山雅之氏
 - ・ 職員交流 佐藤知子氏

時間を縮小、工夫して行いました。

各事業所の管理者であり理事であるお二人に、当法人で大事にしていきたいことを職員に語っていただき、共有できた素晴らしい時間となりました。同時に、救急救命に関する知識と実技を習得しました。